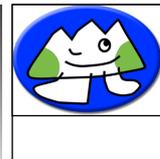


Yamakado News Letter



2019年がスタート

2019年も守護岩詣から始まりました。今年は会員10名が参加。積雪はあるものの、山頂の守護岩でも27cmと少なく、山登りにさほど支障はありませんでした。守護岩のしめ縄を新調して安全祈願を行い、おせちで昼食。その後は天候も良いので県境峠まで足を伸ばしました。



今年一年の安全祈願 Photo 藤本H



乾杯 守護岩にて Photo 藤本H



県境峠にて Photo 藤本H

雪が少ないので 1月も倒木処理作

2018年は台風直撃により山門水源の森でも多数の倒木被害が出ました。コース沿いは早々に処理を行いました。が、まだまだ林内では多数の倒木が放置されたままです。1月19日（土）の保全作業の日には楽舎周辺や沢道コース脇の未処理の倒木処理作業などを行いました。



楽舎裏の風倒木処理 1/19 Photo 村田



沢道脇のヒノキ倒木の枝払いと枝整理 1/19 Photo 藤本H



作業道開設作業も進む 1/14

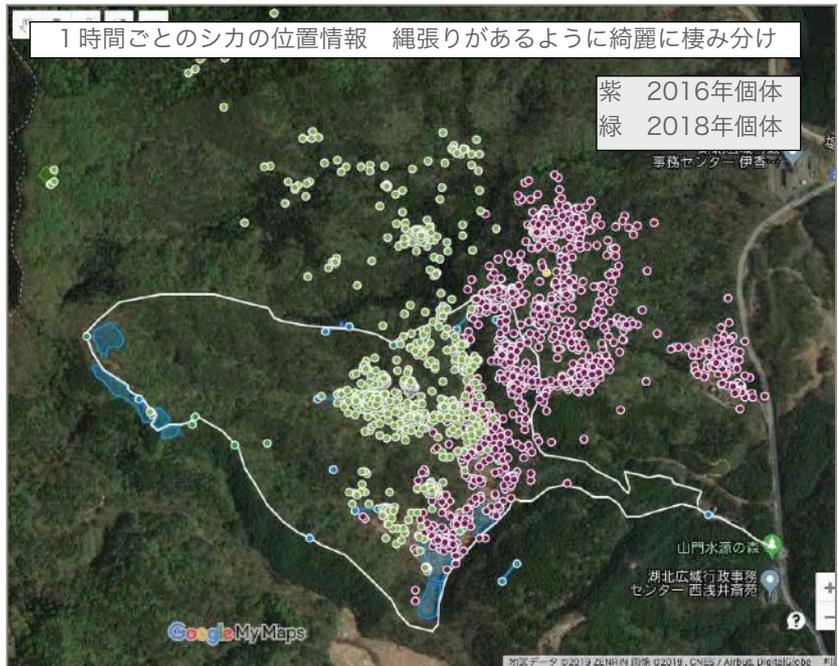
GPS首輪取り付け成功と、シカ行動調査継続中

2000年代初頭に気になり始めたシカによる食害ですが、2010年代になると林内のササや低木類、また山野草などの下層植生、湿原の希少な植物が急激に減少する事態になりました。それを受けて引き継ぐ会ではネットで囲うなどの防獣対策を進めると共に、2014年度から狩猟免許を取得してシカの捕獲を行って個体数管理の取り組みを始めました。

現状は、糞粒調査による毎年の推定密度の調査、低木層の有無の違いによる土砂流出量の比較調査、会員による継続的な森林観察などから現状を把握し、まだまだ密度を減らす必要があるとの判断から、捕獲の継続を行なっています。

また、この辺りは積雪が1mを超えるような多雪地域です。そんな地域で冬場にシカはどのように過ごしているのでしょうか。これを把握することで被害管理、生息地管理、個体数管理に役立てようとシカにGPS首輪を付けて行動調査も行なっています。

昨年は生体捕獲に成功せず、調査できずじまいでした。今年も生体捕獲に挑戦したところ、12月16日に一歳程度のメス子鹿の捕獲に成功しました。子鹿は放獣後の生存率が低く、調査に不適とされています。しかし、積雪時期が迫っ



首輪を付けた子ジカ 命名ワカちゃん



ワカちゃんの行動軌跡 12/16~1/21

ていて生体捕獲のタイムリミットと判断し、この子鹿に首輪を取り付けました。その後、定期的に首輪の記録したGPSデータを遠隔操作で回収しています。そのデータを見る限り、幸いなことに子鹿は今では元気に動き回っているようです。ただし、今年は雪がまだ積もらないため、積雪期の行動調査ができません。雪が降らないのは、

何かと保全作業が進んでありがたいですが、調査ができないのが悩ましいところです。

2016年度にも同様の調査を行なっていますが、そのデータと比較したところ、興味深い違いがみられました。詳細は3月の活動報告会で報告したいと思います。一部を紹介します。

今月の森の様子



春が楽しみなタムシバ冬芽 1/4



ひと時の間の雪化粧 1/21



北分岐周辺ではユキバタツバキの花が観察できます。 1/23